

『歯科技工室の集じんシステムを考える』

磯野啓一郎（日技認定講師）

集塵は、我々の健康を守るために不可欠のものである。粉塵は、職場環境を汚すものであり、また、排出する事により近隣の環境をも汚染する事になる。

集塵装置は、歯科技工士にとって最も重要な設備である。有効な集塵装置を備えないで、歯科技工の業務を続けることは、危険な事であり、知らず知らずのうちに呼吸機能に影響を受けている可能性がある。しかし、これまで歯科技工士養成カリキュラムにおいても、特段の教育時間をもうけてこなかったのが実情であり、大変問題であると感じていた。

平成17年3月、厚生労働省通知により「歯科技工所の構造設備基準及び歯科技工所における歯科補綴物等の作成等及び品質管理指針について」が発せられた。これを良い機会としてとらえ、「歯科技工所の構造設備基準」のなかで、集塵を中心としたことがらを、県内いくつかの歯科技工室の実態調査をふまえて、考えてみたいと思う。

- 1、 風量・風圧・風速の関係を知る
- 2、 集じんシステムの要素を考える
 - ① 吸じん口(マウス・フード・ボックス)
 - ② 配管(口径・曲がり・長さ)
 - ③ フィルター(ネット・サイクロン・フィルター)
 - ④ 吸引ファン
- 3、 実践例

『インプラント上部構造の製作におけるポイント』

オッセオインテグレーションの概念が提唱されて以後、各社様々な表面処理やフィクスチャーデザインが開発され、治療技術に関しても、骨形成術等により適切な骨形成が可能となり、多くの症例で補綴主導型の術式が採用されている。

そして、インプラント上部構造に対する考え方も変化し、機能性と審美性の回復し、永続性を与えることが、上部構造の大きな役割であるといえる。

特に、ラボサイトにおいては、技術面はもちろんであるが適切な診査、診断を行い、術式、デザインを決定することが必要となる。

上部構造の永続性のためには、生物学的な要因と形態学的な要因を十分に理解し、アプローチすることになる。

今回は、上部構造の永続性のために必要な要因ならびにガイドラインを解説し演者の考えを述べたい。また、インプラント補綴術式についても、ステント、印象、補綴術式のステップ毎に紹介し、CAD/CAM システムとの連携についても触れてみたいと考えている。

『各 CAD/CAM 材料の特徴とその考察』

近年の歯科分野において、CAD/CAM 技術は多くの症例に応用されている。

今まで CAD/CAM 技術は、オールセラミックスやインプラント等自費治療を中心に使用されてきたが、2014 年に CAD/CAM 冠が保険収載され、保険治療にも CAD/CAM 技術が応用される時代になってきた。

そのような状況な中で、CAD/CAM システムで加工される材料は多種多様に渡っている。

これら材料を上手く使用するためには、各材料の特徴を理解し、適切な条件で使用することが必要である。

例えば、ジルコニア等は加工物のデザインはもちろんであるが、焼成スケジュール等十分に理解した上で使用することが必要である。

本研修会では、特にジルコニア、チタン、コバルトクロム合金、ハイブリットレジンブロックを中心にそれら材料の特徴について整理し、臨床に使用するためのポイント等について解説したいと考えている。

本研修会が先生方の日常臨床の参考になれば幸いです。